

平成21年度

第1回岡山市総合政策審議会保健・福祉部会における主要な意見

- 1 日 時 平成21年8月28日(金)13:30~15:10
- 2 場 所 岡山市保健福祉会館 9階 機能回復訓練室
- 3 出席者 委員13名
- 4 傍聴者 報道1社
- 5 議 題
 - ・発達障害者支援体制整備について
 - ・岡山市子育てアクションプラン 後期プランについて

6 主要な意見

<発達障害者支援体制整備について>

- ・発達障害の早期発見にはかなり成功しているが、障害を受け入れられない親や、診断につなぐまでの支援が足りない。また、拠点保育園は、たくさんの希望者がおり不足している。
- ・発達障害に対する取り組みで、岡山市はどんな特徴があり、他市と比較してどうなのかという資料を作ってほしい。それにより岡山市がどのような現状にあるのかを見極めておきたい。また、それによりどこにポイントを置くのか、それとも弱点を埋めていくのかという議論をしていくべきだと思う。
- ・幼稚園、保育園では、障害についてきちんと保護者に伝える難しさを感じる。障害を親に言うことは簡単だが、その後の支援がないのに言えない現状がある。また、障害を告げる側のフォローも考える必要がある。
- ・思春期以降になって重大な問題に発展するかどうかには2つの悪いルートがある。1つは子どもの発達障害の重症度の見極めが甘いという問題。もう1つは家庭支援をどう行うかという問題である。このうち、家庭支援が非常に難しいと思う。
- ・犯罪と発達障害の関連性について、重大な事件が発達障害と関連するケースが判明してきているが、多くの場合は、成長して犯罪に直結することはない。診断も支援もされていない状態で、発達障害がより悪化していったという意味では犯罪者の方も被害者であり、やはり早期発見・支援が重要である。
- ・教育問題や親をもう少し教育していくことが大事でないかと思う。
- ・発達障害に対して個別教育の有効性が実証されており、独自のプロセスで支援することが大切である。

- ・義務教育終了後の切れ目のない支援をお願いしたい。
- ・個人情報をどういふふうを守りながら支援していくかというのを十分検討して欲しいと思う。

<岡山市子育てアクションプラン 後期プランについて>
策定への概要説明のみで、特に意見はなし。